
僕の中の黒魔女さん

黒ウサギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の後ろの黒魔女さん

【Nコード】

N9171T

【作者名】

黒ウサギ

【あらすじ】

父親の転勤で住んでいた新潟を離れ東京の学校に通うことになった霧野秀二。

転校初日に黒魔ミヤという少女に気に入られるが、実はその少女、黒魔ミヤは黒魔術を使う魔女と恐れられていた。そして秀二の不幸な高校生活が始まる。

プロローグ（前書き）

これをかいている時、二回ほど指がりました。

..... そんな事ありませんか？

未熟で文才の欠片もない駄文ですが、どうぞお手柔らかかお願いします。

プロローグ

父親の転勤で前に住んでいた新潟を離れ東京の学校に通う事になった。

「ここが今日から僕が通う学校かあ」

都立如月高校、それが主人公の霧谷秀二が東京で通う高校の名前だ。

「それにしてもデカイな」

如月高校は東京ドーム3つ分の敷地を持っており、設備も充実している。

もっと見て回りたいがチャイムが鳴ったので諦めて職員室に向かった。

「新潟から引越して来た霧谷秀二です。都会の事はまだよく知らないのですが、何か変な所があれば教えてください」

自己紹介が終わると教室のところどころから拍手の音が聞こえる。

「じゃあ、霧谷君の席は……窓側の後ろから二番目ね」担任の先生が指を指す方を見ると。

「……………先生」
「なんですか？」
「俺の後ろの席の子なんですけど……………」
「気にしないで下さい！」……………即答ですか」
「霧谷君、早く席に着いてください授業が始められません」
「……………」

これ以上何をいっても無駄っぽいので渋々席に着く。

「……………あの、さっき自己紹介した霧谷秀……………」
「……………君、面白いですね」「えっ？」
「君からは面白い匂いがしますね」
「それって俺が臭いってこと!？」
「フフフ、そうじゃないよ。褒めてるですよ」
「つつ……………!」

彼女の微笑で少しドキツとした、正直可愛い。

「どうしたんですか、霧谷君？」
「え、あっ、い、いやなんでもない」
「何でもないと言われると気になりますね」
「ヴっ、あ、それより君の名前は？」
「むっ、話をそらしたまね、まあいいです、私は黒魔ミヤ」
「くる…ま?、変わった名字だね」
「よく言われます」
「でも、転校初日で仲のいい人が出来たのはよかったこれらもヨロシク」

そのとき僕はまだ彼女の本性を知るよしもなかった。

プロローグ（後書き）

クラスに一人、暗くて謎い人いませんでした？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9171t/>

僕の後ろの黒魔女さん

2011年6月8日14時15分発行